2La-8

衣服製作教育における女子上半身用原型製図法の変遷
－1970年代から1990年代まで－

藤田　恵子

【目的】　1970年代以降婦人服の既製服化率が増加するのに伴い、出版物で掲載される女子上半身用原型製図法（以下原型と略す）が減少していく。衣服製作教育を学校と家庭の両方から捉え、学校および家庭向けの出版物に掲載された原型および衣服パターン製図が、この期間にどのように推移しているのか明らかにするのが本研究の目的である。なお、本研究は家政誌2000年5月号、2001年1月号に掲載された報文の継続の研究である。

【方法】　1970年代から1990年代までの間に出版された出版物における原型の推移を調査した。学校の衣服製作教育として、各教科書出版社の高等学校教科書『家庭一般』『被服』、一般家庭向けの衣服製作教育として、『婦人画報』『婦人之友』『主婦の友』『婦人倶楽部』『ミセス』『マダム』『装苑』『ドレスメーキング』『モード・エ・モード』『服装』『レディブティック』に、それぞれ掲載されている原型およびパターン製図を調査した。

【結果】　教科書では1980年代以降、製図のための計測項目が多い短寸式に近い製図法が減少し、計測項目が少ない製図法になる傾向がみられる。さらに1990年代には計測項目が胸囲と背丈のみで製図できる胸度式製図法による原型に限定されるようになっていった。

雑誌の中には、これまで多くのパターン製図を掲載していた上述の種類のうち、４種類が1980年代以降廃刊に至る。また、雑誌におけるパターンは初心者でも容易に製図でき、原型を使用しない囲み製図の方が、原型使用のパターン製図より多く掲載されるようになり、さらに原型の掲載が激減する。パターン掲載の雑誌が少なくなることから読者の衣服製作離れが読み取れる。これらのことから、この時期は原型の種類が淘汰されると言える。